

【概要版】第11回野菜需給協議会

1 日時：平成22年11月11日（木） 14：00～16：00

2 場所：農畜産業振興機構 北館6階 大会議室

3 議事概要

(1) 野菜需給協議会規約の変更について

事務局から野菜需給協議会の規約の変更について説明。

- ・ 2010年9月末日をもって「財団法人食生活サービスセンター」が解散となり、当協議会の会員から退会することとなった。
- ・ これに伴い、食育の分野から新たに「社団法人栄養士会」に幹事を依頼することとした。

座長より、この規約変更の了承を問う発言があり、一同異議なしとなり了承となった。

(2) 22年産夏秋野菜の需給・価格の見通し

ア 事務局から、資料2-1「22年産夏秋野菜の需給・価格の実績」により、前回の協議会に提示した「22年産夏秋野菜の需給・価格の見通し」と実績の比較及び要因を一部品目について説明。

- ・ 「キャベツ」については、7月から10月までの期間を見ると、入荷量の減少により価格が高騰した。
- ・ 見通しの対象とした6品目すべてにおいて、7月から10月の期間を通じて入荷量の減少と価格の高騰が見られ、特に9月下旬から10月中旬にかけては高い水準で価格が推移した。

イ 農林水産省から、資料2-2「野菜出荷安定対策本部関係資料」により、野菜出荷安定対策本部の推進状況と今後の検討内容について説明。

- ・ 野菜出荷安定対策の1番の目的は、価格の動向を把握・分析し、生産者、消費者、市場関係者などの関係者へ情報を提供し共有することである。
- ・ 野菜生産地に対し、今年産の生育安定対策、次期作への対策として、資材費の導入などの支援のため補正予算として25億円を計上することを審議中である。
- ・ 出荷の前倒し、規格外野菜の出荷という手段もあるが限界がある。

ウ 事務局から、資料2-3「野菜需給協議会幹事会の報告」により、10月19日に開催された野菜需給協議会幹事会について説明。

- ・ 野菜出荷安定対策本部の第1回の会合での要請を受け、急きよ野菜需給協議会幹事会を開催した。
- ・ 野菜の需給状況、今後の見通しを示し、幹事の方々から価格や需給についての情報を伺った。
- ・ 幹事からは、原因・現状・見通しの3点セットでの野菜需給の情報提供がされたことによって安心感を持てるので情報提供が大切、暑さに強い品種の開発・研究が必要などの意見を賜り、その旨を第1回野菜生産出荷安定連絡会議において報告した。

エ 委員からのコメント

【日本スーパーマーケット協会】

- ・ 量販店は野菜の価格高騰に対応するために、普段は5本売りのものを3本またはバラで売るなどして、消費者が購入しやすい値段で販売した。
- ・ 肉や魚と違い、野菜は価格が高騰しても売り上げを確保できる商品である。9月から10月にかけて、売上数は90%まで落ち込んだが、単価を10%~15%上げているので、売り上げとしては前年並である。

【全国地域婦人団体連絡協議会】

- ・ 今年のような気候変動に対応するため、新品種の開発や機能性を失わない国産の冷凍野菜の貯蔵などが必要なのではないか。

【消費科学連合会】

- ・ 野菜をもっと大切に利用し、使い切ることが大切だと実感した。

(3) 22年産秋冬野菜の需給・価格の見通し

ア 株式会社ウェザーマップ江花純氏から、資料3-3「この夏の気象及び今後の気象見通し」により、下記のとおり説明。

- ・ 今年の夏は冷夏の予報だったが、全国的な猛暑となった。その原因としてラニーニャ現象が早期発生したこと、太平洋高気圧の活発化、オホーツク海高気圧の不活発化、また熱帯付近の対流活動の早期活発化があげられる。
- ・ 今後は、11月は平年並から高温で推移するが、12月から平年並から低温になる可能性がある。冬型気圧配置が強まりやすく、一気に冷え込む可能性がある。その原因として、ラニーニャ現象の継続によ

って、偏西風が蛇行し日本付近で南下することがあげられる。

イ 全国農業協同組合連合会から、資料3-4「秋冬野菜の生産（生育）・出荷状況について」により、下記のとおり説明。

- ・ 資料は10月末時点のものだが、11月9日に産地に電話で状況を聞いたのでその内容を中心に説明する。
- ・ 「冬キャベツ」は、天候の影響により出荷の時期がずれ、各主産地で出荷量が平年の半分ほどである。11月下旬以降本格的な出荷となる。
- ・ 「たまねぎ」は、主産地の北海道で収穫を終えたが、天候不順のため成品率が悪く、例年になく小玉傾向である。来年の春までの長期出荷となるが、やや供給不足になる。
- ・ 「秋冬だいこん」は、天候不順により平年より出荷量はやや少ない。11月下旬から本格的な出荷になる。
- ・ 「冬にんじん」は、地温低下などの影響で、本格的な出荷は11月の中旬以降になる。
- ・ 「秋冬はくさい」は、主産地の茨城県で出荷が遅れている。11月下旬には平年並の出荷になる。
- ・ 「冬レタス」は、茨城県から兵庫県、愛知県にウェイトが移行している時期であるが、各県とも出荷が鈍っている。11月下旬になると平年並の出荷に戻る。
- ・ 幹事会での報告時より、やや（1旬ほど）ずれて本格的な出荷となると考えている。

ウ 藤島委員から、資料3-1「22年産秋冬野菜の需給・価格の見通し（概要）」により、下記の通り説明。

「冬キャベツ」について

- ・ 作付面積は全体的に前年をやや上回る。
- ・ 生育状況は干ばつの影響で序盤の定植が遅れたものの、生育は総じて順調。
- ・ 出荷量は、千葉、神奈川が当面平年を下回るが、12月には回復する見込み。
- ・ 価格は、前年を下回って推移するが、愛知が本格化する2、3月以降一段の低下の可能性もある。

「たまねぎ」について

- ・ 作付面積は前年並だが、産地（北海道）の天候不順により平年以上

のロスが多く、歩留りが低下し、出荷量は少なかった前年をさらに下回る見込み。

- ・ 米国を中心に輸入（生鮮もの）が増える可能性があるが、価格に与える影響は軽微と見られる。
- ・ 価格は品薄を反映し、高値が継続する見込み。

「秋冬だいこん」について

- ・ 作付面積は神奈川、千葉で微減。
- ・ 生育は概ね順調になりつつなり、12月以降は平年並。
- ・ 期間トータルでの出荷量は、前年をやや上回り、特に2、3月は千葉を中心に前年を大きく上回る見込み。
- ・ 価格は昨年並のキロ60～80円程度で安く推移し、千葉から前年を上回る出荷量が見込まれる2、3月にはさらに前年を下回る水準となる可能性もある。

「冬にんじん」について

- ・ 作付面積は前年を下回る。
- ・ 生育については、猛暑の影響を受け、千葉では7日～10日、愛知では1週間以上遅れている。
- ・ 玉太りが悪く、12月初旬は、M・S中心、下旬にはL・2L級も出てくる見込み。
- ・ ただし、年明け以降も出荷量は平年より1、2割少ない見込み。
- ・ 価格は、12月中旬までは前年を1割程度上回って推移し、上位等級が出回る12月下旬には更なる上げもありうる。
- ・ 年明けに、生育が遅れた分が集中し、若干の下げの可能性はあるものの、徳島産が出荷される3月までは高値で推移する見込み。

「秋冬はくさい」について

- ・ 作付面積は愛知が1割減少しており主要3県では微減。
- ・ 生育状況は干ばつの影響で序盤の定植遅れがあったものの現在概ね順調。
- ・ 価格は国産キムチ需要など加工需要が強く堅調に推移。
- ・ 12月には、寒波による鍋需要の増加も見込まれることから一段上げの可能性もありうる。

「冬レタス」について

- ・ 作付面積は主要4県でほぼ前年並。
- ・ 生育状況は序盤の定植が遅れたものの、現状は総じて順調。
- ・ 価格は、平年並で推移するとみられるが、レタスは低温の影響を受けやすいため12月に寒波が来れば供給も減って価格が上昇するこ

ともありうる。

エ 委員からのコメント

【全国地域婦人団体連絡協議会】

- ・ 生育が遅れていたものが後に集中して出荷されるとのことだが、農業労働力の高齢化が進む中で、収穫のずれ込みによる忙しさが順調な出荷に影響を与えないか心配である。

【全国農業協同組合連合会】

- ・ 集中的な出荷になれば現場には相当な労働力が必要になる。だが、現段階ではそこまでの集中出荷はないと見ている。

【藤島委員】

- ・ 野菜の高騰が騒がれているが、レタスの収穫現場では、深夜1時から収穫し、朝の5時には収穫を終えなくてはならない。新鮮な野菜を届けるための苦労を考慮すれば、ある程度値段が高いのは致し方ないのではないか。作業の集中する、しないの問題だけではないことを消費者には理解してほしい。

【日本チェーンストア協会】

- ・ 野菜は工業製品でないので、均一した品質と重量の統一は難しい。野菜が高騰した場合は、消費者の買い物の予算に合うように、グラム販売ではなく、1/2や1/4割りなどのカット販売で対応せざるを得ない。

(3) 野菜消費拡大に向けた協議会の取組について

ア 日本チェーンストア協会から、小売団体としての野菜の今後の需要見込みを説明。

【日本チェーンストア協会】

- ・ 今回の野菜の高騰には、1/2や1/4カットなど小分けにして、消費者が購入しやすい価格で販売した。従って、購入数量は減少したが購入金額は減少しなかった。
- ・ カット野菜や冷凍食品、もやしなどは販売金額が変化しなかったもので順調な販売となった。
- ・ これから鍋物需要が増加する季節となるが、鍋物関連のはくさいやねぎの値段が高いので、安価となっているきのこ類とセットでの販売を提案している。
- ・ 気象、供給量の問題もあるが、購入量は引き続き減少するが販売金額は変わらないと見込んでいる。

イ 委員からのコメント

【全国消費者団体連絡会】

- ・ 野菜価格の高騰は、購入した野菜を無駄なく使ったり他の野菜との組み合わせを考えるチャンスであると思う。

【機構 木下理事長】

- ・ 小売業界では、野菜の高騰に対しカット売りで対応しているとのことだが、消費者は価格が下がってもカット売りに慣れてしまいカットされていない野菜を買わなくなってしまうのか、あるいはカットされていないものを購入するようになるのかといったように、消費者が価格にどのように反応すると見ているのか。

【全国青果物商業協同組合連合会】

- ・ 売る方としてはカットせずに売りたいが、一度カットしたものを覚えてしまうと、長い目でみるとカットしていないものを買わなくなるかもしれない。青果店は、各家庭の人数、お客様にすすめる消費量と1日に買う金額をみており、それに合わせてもやしなどの安い品や量もすすめるので、価格だけに合わせることはできない。

【藤田委員】

- ・ どの程度以前からの確な天気予報があれば対応が取れるのか、またどのような対応が可能なのか。

【全国農業協同組合連合会】

- ・ 気象情報は参考にしている。だが、今年は想像以上の気象変動であり通常対処しうる状況を超えていた。

【農林水産省】

- ・ 行政としても、長期予報を踏まえ技術指導の励行をお願いした。県を通じて普及員が産地に技術指導を行ったが、今年の異常気象が予想を超え対策の効果が得られなかった。
- ・ 産地の高齢化などにより、排水対策がうまくいかなかった。
- ・ 今年の異常気象に対応する生産基盤の構築のため、補正予算で25億円を計上することを審議中である。

ウ 各団体委員から、資料4-1により、野菜消費拡大に向けたそれぞれの取組を以下のとおり説明。

【社団法人日本栄養士会】

- ・ 「野菜を食べよう-メタボ撲滅-キャンペーン」を展開。
- ・ 「野菜たっぷり350（サンゴーマル）運動宣言」を発表。

- ・ 「栄養相談・食生活相談」事業、栄養ケアステーションなどによる相談事業を展開。
- ・ 野菜の機能性を盛り込んだ指導用冊子「ヘルシーダイアリー」を作成。
- ・ 会員向けに、“もっと知りたい「野菜と植物性乳酸菌」セミナー”を開催。

【社団法人全国中央市場青果卸売協会】

- ・ 全国各地の中央卸売市場で地元市民を対象とした「市場まつり」を開催。
- ・ 青果物健康推進協会が行う消費拡大事業を支援。

【青果物健康推進協会】

- ・ 「大人の食育」として、各企業が取り組んでいるメタボ対策を支援。
- ・ 従業員食堂会社の優良食堂を認定。
- ・ 野菜摂取拡大に寄与するスーパーになるための研修会を開催。
- ・ 小学校、教育委員会と連携した食育活動を実施。
- ・ 野菜の価格低落時の緊急的消費喚起事業を稼働。
- ・ 大学生らを対象に、各大学でセミナーやイベントなどを実施。
- ・ 岸朝子の「野菜がおいしゅうございます認定」事業を実施。

エ 料理研究家の川上すみよ氏から、資料4-2により、冬の消費拡大の提案として、冬野菜を手軽にたくさん食べられる調理法を下記のとおり紹介。

- ・ 「カラダにやさしい野菜蒸し」は、簡単にできる野菜料理なので野菜をたくさん食べてほしい。
- ・ 野菜の細胞は熱を加えることで壊れてしまうが、スープの中に栄養が溶け出すので、スープをリゾットなどにして残さず食することで体に良い。
- ・ 鍋は簡単に作れて、体がホカホカになるので是非食べてほしい。

オ 事務局から、資料5-3により、今後の消費拡大に向けた取組としての、新たなホームページの内容について下記のとおり説明。

- ・ 今回、協議会ホームページの中に、より積極的に野菜消費の少ない若い人や独身者に、分かりやすく、野菜を身近に感じてもらうための情報発信をする新コンテンツを作成する。
- ・ 旬の野菜をテーマに産地情報の提供、価格動向の解説、野菜の消費促進のための情報提供、HPユーザーからの質問と回答を中心に展開

していく予定。

カ 委員からのコメント

【消費科学連合会】

- ・ 今年のように予測できずに野菜が高騰した時に、対応マニュアルがあれば消費者も安心するのではないだろうか。

【全国地域婦人団体連絡協議会】

- ・ 会員が、ネットなどを通じて相乗りして情報提供を行うべき。
- ・ 食料自給率の拡大と不作の問題を解消するために、瓶詰、缶詰、漬物などにして豊作時に蓄えておけないのだろうか。

【全国漬物協同組合連合会】

- ・ 漬物は高い野菜を仕入れて加工しても即価格に連動できない。また野菜自体の質が落ちているのに値上げをしたら漬物離れが進行してしまう。
- ・ 高騰時に備えて、豊作の時に大量に漬物にしても貯蔵する場所がない。

キ 事務局から、資料5-1、5-2により、野菜需給協議会現地協議会の報告、野菜セミナーのお知らせについて下記のとおり説明。

- ・ 産地との意見交換によって理解を深めるために、9月2日に長野県南佐久にて野菜需給協議会現地協議会を開催した。
- ・ 第3回野菜セミナー（11月30日開催予定）では、講師として「野口のタネ」の野口勲氏をお招きする予定。

ク その他

【全国農業協同組合中央会】

- ・ 資料2-2で、野菜の高騰の原因の一つは加工・業務用が市場の引き合いを強めたこととなっているが、契約野菜を支援する事業があまり利用されていないという分析も出ている。契約野菜の支援も充実させないと安定供給が不安定になると考える。

最後に座長より本日の議論を踏まえ、野菜の需給状況の周知と情報の共有、消費拡大に努めていくよう関係者の方々にお願いする旨の発言があった。また事務局より、次回の野菜需給協議会は春野菜の作付動向がある程度判明する3月中旬頃に開催予定と説明し閉会となった。